

汐鳴り二宮中学校学校だより

令和２年度

Ｎｏ．８

発行：松本雅志

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ：ninomiya-junior-high-school.edumap.jp/

**◎令和２年を振り返って**

今年も残すところ数日となりました。振り返ってみればコロナで始まり、コロナに翻弄された１年間でし

た。３月の全国臨時一斉休業、卒業式や入学式も例年とは大きく異なるものとなりました。休業中の動画配

信や郵送での課題配布なども初めての体験でした。６月からの分散登校、短くなった夏休みは猛暑の中での

登校となりました。まだまだ、収まる気配が見えないコロナですが、最大限の感染防止策を行いながら、学

校教育を継続していきたいと考えています。

　そのような中、明るい話題もありました。一つは小惑星探査機「はやぶさ２」の偉業です。地球からおよ

そ３億キロ離れた直径わずか９００ｍのリュウグウに着陸し、無事にサンプルを地球に持ち帰ってきました。

その偉業に世界中の科学者が賛辞を贈ると共に、生命誕生の秘密解明への期待が高まっています。

　このような世界的な偉業は、一朝一夕に成し遂げられるものではありません。最先端の科学技術の発展の

下には、数え切れないほどの基礎研究やそれを支える学問的な背景があります。それはとりもなおさず、日

本の教育水準の高さを示していると言えます。

　2017年度の中学校の課題図書に「円周率の謎を解く」という本があります。これは江戸時代の数学者であ

る関孝和という人が、当時の世界で最も正確な円周率を独自の理論で解き明かした物語です。江戸時代の日

本では一般庶民に数学が流行っており、難しい問題に挑戦する人々が多くいたそうです。その情熱は純粋な

「この問題を解いてみたい」という学問的な動機に基づくものでした。このような日本の伝統や気質が脈々

と受け継がれ、はやぶさ２の成功へとつながっているのでしょう。

　現在、３年生は来年の２月に迫った受験に向けて勉強を頑張っている時期です。

もちろん目標の高校や進路に向かうための勉強も大切ですが、本来勉強＝学問とは

どのようなものであるか、なんのために勉強をするのかということを、はやぶさ２

や関孝和の偉業から考えてみるのも良いのではないでしょうか。

（この話は、２学期の終業式に校長から全校生徒に伝えました）



**◎学校運営協議会の活動**

　２学期、学校運営協議会が活動を再開しました。コロナ禍で方向性が定まらない中ですが、活動を止めてしまうことで、来年度以降の活動に影響が出ることも考慮し、できることから少しずつ行っていきました。

　９月２４日と１１月２４日には二宮中学校図書室において、寺子屋を実施しました。定期テストの前という事もあり１，２年生が参加し、地域の方や保護者の方が講師として参加してくださいました。

　１１月６日には、昨年度と同様「防災イベント」を実施しました。町の防災安全課の職員をお呼びして、二宮町のハザードマップの話や二宮中学校にある防災備蓄庫の見学、消火訓練などを行いました。参加された保護者の方や地域の方にも好評な内容であったと思います。

　１２月に入り、コロナ第３波が心配される中、イルミネーションの設置を行いました。これは、医療従事者の方々への感謝の気持ちを示すと共に、コロナ禍の中でも少しでも気持ちを明るく持って欲しいというメッセージも含まれています。

　来年１月３０日にはオンラインで「多文化デー」を実施する予定です。地域に住んでいられる多様な文化を持つ方々から、それぞれの文化的な内容について教えていただく内容となっています。詳細は、年が明けてからご連絡をする予定です。

　地域の学校として、多くの人の手を借りながら生徒の健全育成を図る取り組みとしてのコミュニティ・スクールを温かい目で見守っていただきたいと思います。